(版權所有)

明治二十一年八月十三日印刷
明治二十一年八月十五日出版

通信女學講義録

每月一回發行
壹冊正價廿錢
全國無郵送稅

第拾貳卷

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

早産

○女子生理　（第十二回）　船越鼎太郎講

第二章　懐姙の事　（其九）

早産

早産ハ其原因流産と一様にして惟其時期を異にし流産ハ懐胎後廿八週以内にして産兒の生命を全ふせしめ難し早産ハ廿八週日以後にして之れを生活せしむることを得るものなり早産の正産と異なる所ハ早産にてハ其産兒胎内にて充分發達せざるを以て甚た薄弱なり之れ産兒を養育するに最も注意を要すへき也又姙婦の之れを豫防するにハ流産の豫防方に從がひ既に出産したるの後ハ正産の取扱方に遵ひ尚は嚴重に攝生法を守らるべ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

假陳痛の徴候

陳痛の眞假を知るべき理由

し。

假陳痛

姙娠の末期に腹部、背部、腰部に恰も陳痛の如き疼痛を起す之れを假陳痛或は豫備陳痛と云ふ假陳痛は多く夜間に來り其疼痛は一局部に止らず或は腹部を惱まし或は背部に移り絶へず其所を轉換へ之れを來たすの間斷も不正にして或は長く或は短く其疼痛の度も或時は劇く或時は弱し。

仮陳痛は姙娠の末期に起り腹部腰部に疼痛を起すを以て眞の陳痛と誤り未だ出産の期に至らざるに産婆及醫師を聘すると數々之れあり此時に産婆及醫師を聘する 二

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

眞假陣痛の區別

ハ要なきとなれハ看護婦及姙婦も假陣痛と眞の陣痛とを鑑別すると必要なり。

假陣痛ハ姙娠の滿期(四十週)の前二三週より來り眞の陣痛ハ滿期に至て來る又假陣痛にハ粘液と血液とを混したるものを漏らすとなし眞の陣痛にハ之れを漏らす又假陣痛ハ其疼痛を來たすの場所一定せず始め或處に來り次きに他の部に轉し眞の陣痛ハ一般に背部より始まる、假陣痛ハ其疼痛の間斷一定せず或時ハ半時間を經て來り或時ハ一二時間を經て來り或時ハ劇く或時ハ弱し眞の陣痛ハ其間斷概ね正く其間隙漸次に短くなり疼痛次第に劇くなるものなり、眞假の陣痛を區別するに最も

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

四 大切なるハ粘液中に血液を混したるものを漏らすと漏らさゝるにあり之れを漏らすも出産の前徴にあらずと云ふものあれとも極めて稀なるとにして破格なりとす

假陳痛取扱方

假陳痛を一に豫備陳痛とも稱し初姙の婦人にありてハ出産前三四日も前より時々腹部硬くなり二三分時にして緩むものなり之れ病的にあらず生理的の作用なれハ別に療治を加ふるに及バす然れども其疼痛劇甚して之れに勝へ難き時ハ温石、湯タンポ、の如きを試むへし。

懷胎の日數

懷胎の日數

受胎てより分娩まて胎兒の母體中にある日數ハ動物の種類に從て各同しからず譬ハ馬は一ヶ年駱駄ハ四百有

月經の止みたる日を記臆し置くへき理由

餘日なり人類にありてハ四十週即ち二百八十日なりとす又大陽暦にて九ヶ月と七日大陰暦にて大凡十ヶ月とす但し二百八十日と算定むるも受胎たる日より算ふるにあらず最後の月經を見たる日より算へたるものなり
今茲に殊更に懷胎の日數を講述する所以ハ婦人ハ月經のある毎に其終りたる日を記臆し置き姙娠したる時に其月經の終りたる日より四十週即ち二百八十日を算へて出產の日を豫め知らんか爲めなり月經の終りたる日より四十週即ち二百八十日を經へて出產すると云ふハ規則となり居れとも此後に講述する如き理由あるか故に常に此規則に適應するものにあらず出產の期日を算用

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

する法種々あれとも左の姙娠暦ハ最も便利なるものにして月經の終りたる日と大凡出産すへき日とを對照たるものなり假令ハ一月一日に月經止りたりとすれハ大凡十月八日頃に出産すると知るへく八月四日に月經止りたりとすれハ大凡翌年の五月十一日頃に出産すると知らるへし又二月に閏ある時ハ此日をも算入することを忘る可らず二月に閏あるも三月若くハ四月に月經止みたる時にハ此表の儘を用ひて誤りなし然れ共此兩月を除き他の月に月經の止みたる時ハ此表に記載ある日より一日前に日を繰替へ其日を以て標準とすへし假令ハ一月一日に月經止まりて二月に閏ありとすれハ大凡十

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

月七日頃に出産ありと知らるへし。

妊娠暦

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
一月 一	十月 八
同 二	同 九
同 三	同 十
同 四	同 十一
同 五	同 十二
同 六	同 十三
同 七	同 十四
同 八	同 十五
同 九	同 十六
同 十	同 十七
同 十一	同 十八
同 十二	同 十九
同 十三	同 二十
同 十四	同 二一
同 十五	同 二二
同 十六	同 二三
同 十七	同 二四
同 十八	同 二五
同 十九	同 二六
同 二十	同 二七
同 二一	同 二八
同 二二	同 二九
一月 二九	十一月 五
同 三十	同 六
同 三一	同 七
二月 一	同 八
同 二	同 九
同 三	同 十
同 四	同 十一
同 五	同 十二
同 六	同 十三
同 七	同 十四
同 八	同 十五
同 九	同 十六
同 十	同 十七
同 十一	同 十八
同 十二	同 十九
同 十三	同 二十
同 十四	同 二一
同 十五	同 二二
同 十六	同 二三
同 十七	同 二四
同 十八	同 二五
同 十九	同 二六
二月 二六	十二月 三
同 二七	同 四
同 二八	同 五
三月 一	同 六
同 二	同 七
同 三	同 八
同 四	同 九
同 五	同 十
同 六	同 十一
同 七	同 十二
同 八	同 十三
同 九	同 十四
同 十	同 十五
同 十一	同 十六
同 十二	同 十七
同 十三	同 十八
同 十四	同 十九
同 十五	同 二十
同 十六	同 二一
同 十七	同 二二
同 十八	同 二三
同 十九	同 二四

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
一月 二三	十月 三十
同 二四	同 三一
同 二五	十一月 一
同 二六	同 二
同 二七	同 三
同 二八	同 四
三月 二六	十二月 三一
同 二七	一月 一
同 二八	同 二
同 二九	同 三
同 三十	同 四
同 三一	同 五
四月 一	四 六
同 二	同 七
同 三	同 八
同 四	同 九
同 五	同 十
同 六	同 十一
同 七	同 十二
同 八	同 十三
同 九	同 十四
同 十	同 十五
同 十一	同 十六
同 十二	同 十七
同 十三	同 十八
同 十四	同 十九
同 十五	同 二十
同 十六	同 二一

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
同 二十	十一月 二七
同 二一	同 二八
同 二二	同 二九
同 二三	同 三十
同 二四	十二月 一
同 二五	同 二
四月 二六	一月 三一
同 二七	二月 一
同 二八	同 二
同 二九	同 三
同 三十	同 四
五月 一	同 五
同 二	同 六
同 三	同 七
同 四	同 八
同 五	同 九
同 六	同 十
同 七	同 十一
同 八	同 十二
同 九	同 十三
同 十	同 十四
同 十一	同 十五
同 十二	同 十六
同 十三	同 十七
同 十四	同 十八
同 十五	同 十九
同 十六	同 二十
同 十七	同 二一

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
三月 二十	同 二五
同 二一	同 二六
同 二二	同 二七
同 二三	同 二八
同 二四	同 二九
同 二五	同 三十
五月 二七	三月 三
同 二八	同 四
同 二九	同 五
同 三十	同 六
同 三十一	同 七
六月 一	同 八
同 二	同 九
同 三	同 十
同 四	同 十一
同 五	同 十二
同 六	同 十三
同 七	同 十四
同 八	同 十五
同 九	同 十六
同 十	同 十七
同 十一	同 十八
同 十二	同 十九
同 十三	同 二十
同 十四	同 二一
同 十五	同 二二
同 十六	同 二三
同 十七	同 二四

八

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
同十七	同二二
同十八	同三三
同十九	同二四
同二十	同二五
同二一	同二六
同二二	同二七
同二三	同二八
同二四	同二九
同二五	同三十
六月二七	四月三
同二八	同四
同二九	同五
同三十	同六
七月一	同七
同二	同八
同三	同九
同四	同十
同五	同十一
同六	同十二
同七	同十三
同八	同十四
同九	同十五
同十	同十六
同十一	同十七
同十二	同十八
同十三	同十九
同十四	同二十
同十五	同二二

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
同十八	同二二
同十九	同二三
同二十	同二四
同二一	同二五
同二二	同二六
同二三	同二七
同二四	同二八
同二五	三月一
同二六	同二
七月二八	五月四
同二九	同五
同三十	同六
同三一	同七
八月一	同八
同二	同九
同三	同十
同四	同十一
同五	同十二
同六	同十三
同七	同十四
同八	同十五
同九	同十六
同十	同十七
同十一	同十八
同十二	同十九
同十三	同二十
同十四	同二一
同十五	同二三

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
同十八	同二五
同十九	同二六
同二十	同二七
同二一	同二八
同二二	同二九
同二三	同三十
同二四	同三一
同二五	四月一
同二六	同二
八月二八	六月四
同二九	同五
同三十	同六
同三一	同七
九月一	同八
同二	同九
同三	同十
同四	同十一
同五	同十二
同六	同十三
同七	同十四
同八	同十五
同九	同十六
同十	同十七
同十一	同十八
同十二	同十九
同十三	同二十
同十四	同二一
同十五	同二三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
七月十六	四月二十二
同十七	同二十三
同十八	同二十四
同十九	同二十五
同二十	同二十六
同二十一	同二十七
同二十二	同二十八
同二十三	同二十九
同二十四	同三十
同二十五	五月一
同二十六	同二
同二十七	同三

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
九月二十八	七月五
同二十九	同六
同三十	同七
十月一	同八
同二	同九
同三	同十
同四	同十一
同五	同十二
同六	同十三
同七	同十四
同八	同十五
同九	同十六
同十	同十七
同十一	同十八
同十二	同十九
同十三	同二十

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
八月十六	五月二十三
同十七	同二十四
同十八	同二十五
同十九	同二十六
同二十	同二十七
同二十一	同二十八
同二十二	同二十九
同二十三	同三十
同二十四	同三十一
同二十五	六月一
同二十六	同二
同二十七	同三

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
十月三十	八月六
同三十一	同七
十一月一	同八
同二	同九
同三	同十
同四	同十一
同五	同十二
同六	同十三
同七	同十四
同八	同十五
同九	同十六
同十	同十七
同十一	同十八
同十二	同十九
同十三	同二十
同十四	同二十一

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
九月十六	六月二十三
同十七	同二十四
同十八	同二十五
同十九	同二十六
同二十	同二十七
同二十一	同二十八
同二十二	同二十九
同二十三	同三十
同二十四	七月一
同二十五	同二
同二十六	同三
同二十七	同四

月經ノ終リタル日	出産スヘキ頃
十二月一	九月七
同二	同八
同三	同九
同四	同十
同五	同十一
同六	同十二
同七	同十三
同八	同十四
同九	同十五
同十	同十六
同十一	同十七
同十二	同十八
同十三	同十九
同十四	同二十
同十五	同二十一
同十六	同二十二

一〇

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 八月 同 同 同 同
二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三十 三一 一 二 三 四 五

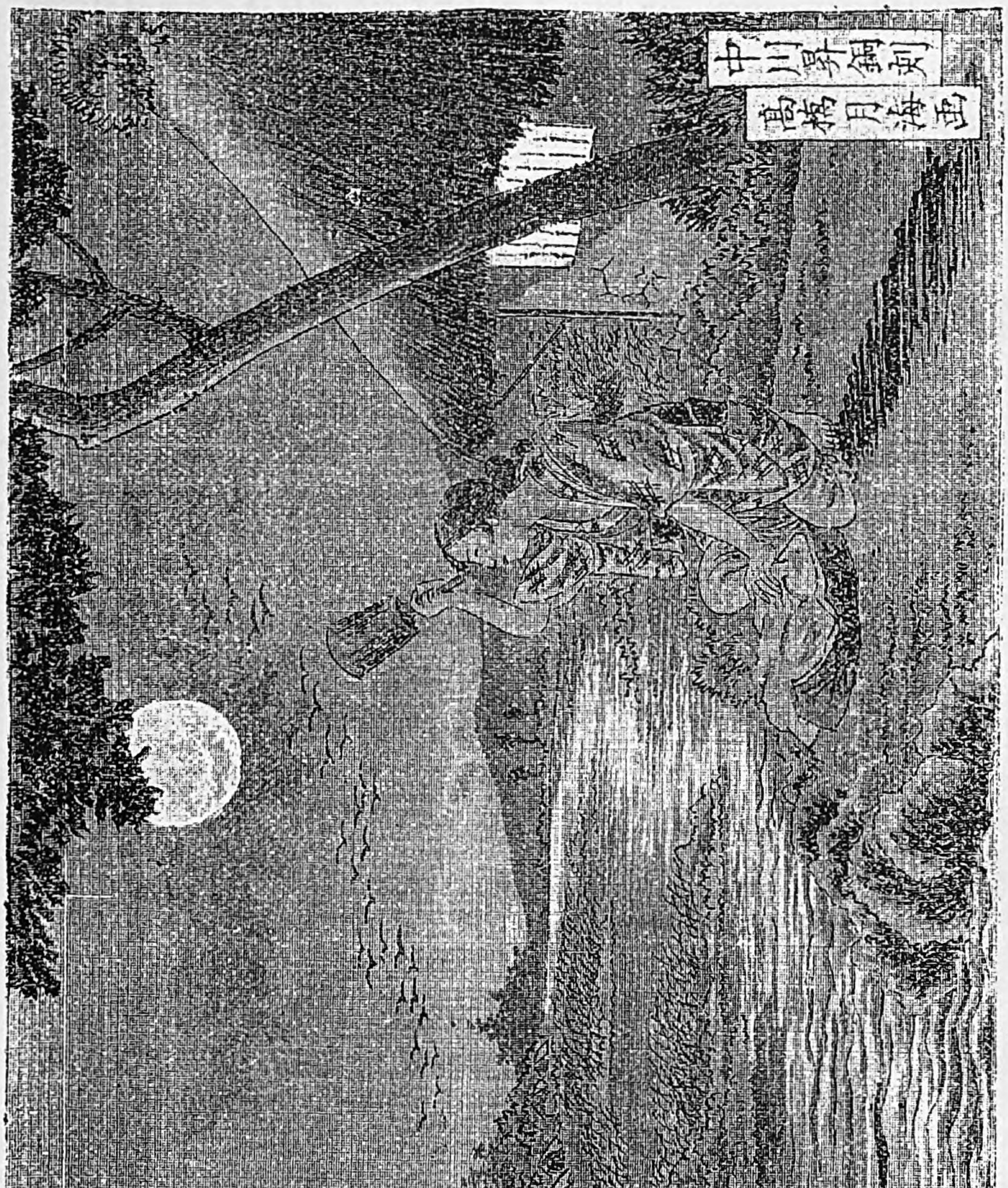
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
十五 十六 十七 十八 十九 二十 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三十

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 九月 同 同 同 同 同
二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三十 三一 三 四 五 四 五 六

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
十七 十八 十九 二十 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三十 三一

同 同 同 同 同 同 同 十月 同 同 同 同 同 同
二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三十 一 二 三 四 五 六 七

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY



三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鼻道閉塞したる時の心得

鵞口瘡の原因

〇育兒心得　（第十二回）

船越鼎太郎講

問。赤子の鼻道に鼻汁凝固して之れを塞き呼吸に困難を來たしたる時ハ如何取扱ひ申すへく候や。

答。鼻道に鼻汁之れあり候節ハ直に拭ひ取り若し凝固て容易に拭ひ取り難き節ハ海綿或ハ布片を温湯に浸し先つ己れの顔に當て其温度を試み而して赤子の鼻を數分間蒸すへし斯く致し鼻汁の鼻孔より流れ出でたる時ハ注意して拭ひ取らるへく候也。

問。鵞口瘡の原因ハ如何なるものに候也。

答。鵞口瘡ハ生後二週間以内の初生兒及早產の兒に多きものにして此際には乳汁を嚥下力弱く且つ口内の粘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

膜も薄弱なるが爲めに些細の事も之れか原因と相成るものに候即ち乳を哺みたる後口內に殘りたる乳汁腐敗に傾き或ハ從來のマクリを哺しめ之に用ふる絹布の不潔なるか或ハ牛乳を用ひて其哺乳瓶不潔なるに由り或ハ腐敗に傾きたる牛乳コンデンスミルク等を用ふるに由て起るものに候。

鵞口瘡の徵候

問。鵞口瘡ハ如何なる徵候を現すものに候や。

答。唇、口內の粘膜、舌、等に許多の白斑を生し恰も乳汁の塊り口內に殘り居るが如く相見へ候得共乳汁の凝塊なれハ容易に拭ひ取るへきも本病の爲めに生したるものハ容易に拭ひ取ることを得す強て取らんとすれハ出血す

一四

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るとこれあり乳を哺めハ疼痛加はるか故に乳を哺むとを好まず其重きものハ咽喉食道に蔓延り乳汁を嚥下す能ハず音聲斷れ嘔吐を發し綠色の大便を漏らし遂に生命を危くすると之れあるものに候。

鵞口瘡の豫防法並ニ取扱方

問。鵞口瘡ハ如何取扱ひ申すへく候や。

答。毎度申上候通り本病の有無に關らず赤子の口内に入るゝものハ注意して清潔に致たさるへく候本病ハ哺乳瓶若くハ絹布にて作りたる乳房を用ふるものに多く發することに候へハ之等を用ふるときハ怠らず毎に曹達水にて洗ひ母乳或ハ乳母の乳を哺む時ハ折々乳房を冷水にて洗ひ清潔に致し又乳を哺ましめたる後には必

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

すロ内を拭ひて清浄に致たさるへく候。
患兒の母乳に由て養育せらるゝものハ母乳のみを與ひ全く他の食物を禁し又母乳なくして牛乳にて養育せらるゝ時は全く牛乳のみに限り絹布等にて作りたる乳房を用ひ居らバ之れを廢して哺乳瓶を用らるへし哺乳瓶ハ二個以上を備へ置き曹達水にて清潔に洗滌き交番に之れを用ひ牛乳の善惡を撿するハ母親たるものゝ義務として決して他に命す可らず牛乳ハ十二時間以前に搾りたるものを用ふるハ宜しからず殊に温暖なる期節にハ土窟若くハ氷を入れたる桶或ハ箱の内に蓄へらるへく候口内にハ廿倍の重炭酸曹達水或ハ五十倍の格魯兒

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

呱くとに付き心得置くへき理由

酸加里水を塗り或ハ硼酸と白糖を研和たるものを舌上に置かるゝも效あるものに候患兒をして日光の射入空氣の通暢宜き室内に居らしむるハ效ありこゝを以て或ハ地を轉して意外に良效を見ると之れあるものに候。

問。赤子の呱くとに付き何にか心得置くへきと之れあり候や。

答。赤子ハ寒、熱、痒、痛の如き其身に安すからさるとあるも饑渴に迫りて其救助を求むる時も呱くの外には言顯はすへき言辭とてハ之れなく此呱くとハ人類の遠祖より傳はり最も古き言語にして五大洲に通する萬國語とも申すへきものに候へハ之れを充分に御驗究なされ其

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

一八

啼方を聴き分けて其意味のある所を御了解なさるゝハ母親方に最も緊要のことと存候之等のことに御注意之れなくてハ最愛の玉兒が頻りに泣きて熱心に何にか請求むる所あるも母親の之れを辨へさるより其れに應すへき様もなく其啼く毎に何時も乳を飲ましめんとせらるゝ母親方を常に見受ることに候母親の乳房を赤子の口内に入るゝ時頻りに頸を振りて吸ハざるハ其乳を好まさる證據なるに乳房を吸はされハ口内に乳汁を強て絞り込み赤子を苦しめ遂には前回に申上候如き諸病を引起すと抔も之れあり候又啼方の常とハ異り注意深き母親なれハ病の爲めに啼くと云ふことを知るのみならず何れの

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

所に病ありと云ふことを了解すへきに之等のことハ不注意に打過ぎ病の余程重くなり醫師に問はれて始めて心附かるゝ方も之れあり候醫師か赤子の容躰を母親に尋ね候節教育なき人にても注意深き老練の婦人ハ火の附いた樣に泣き入りたりとか面に皺を寄せたりとか其時に斯く取扱ひたるに如何になりたりとか云ふて如何にも醫師の眼に見へ耳に聽く如く告くるものあり之れ醫師の診斷を正確にし治療をも誤らざらしむるものにして眞に玉兒の幸福と申すへし斯く母親の注意綿密なるハ一重の新衣編物の唾掛にハ遙に勝りたる慈愛の賜に之れあるへく候

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

問。其啼き工合のことに付き承り置き度く候。

答、啼き工合ハ聲にても眞似の出來難きものなれハ況して澁き筆にてハ御了解も六ヶ敷きことと存し候へ共左に申上候事を御心得の上御驗究せられなバ必ず大に御悟りに相成ること之れあるへくと存候。

小兒の意に逆ひ怒りを發したる時ハ烈く號き、睡眠を催したる時ハ睡けき一種の啼き方をなし、欠伸の後に啼き或ハ啼きなから欠伸をなすことあり、悲き時にハ歔欷をなし、睡り居るものを醒覺す時ハ銳聲にて泣き出だすものに候、饑渴の爲めに啼くハ甚た鑑別し易くして此時ハ淚を流すことなく愁なる聲にて啼き、又疼痛ある爲めに啼く

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

時ハ老練なる人にハ其疼痛ある場所までも知れるものにて、齒痛の時にハ大にじれて呱き、耳に疼痛ある時ハ短く鋭く耳を貫く如き泣聲を放ち時々手を擧て患側の頭に置くものに候、疝痛の爲めに呱く時も亦明白にして其呱き工合ハ耳に痛ありて呱く時の如く鋭き呱方にてハ之れなく間斷ありて且ついきむ樣なる泣聲を發し此際下支を腹壁の方に屈曲るものに候、氣管支加答兒の時ハ苛薄して痰の懸り居るか如き泣聲を發し、肺に焮衝ある時ハ泣くと云ふよりハ呻吟と申方適當に之れあるべく、格魯布即ち馬脾風の時ハ粗厲聲にて泣き、咳嗽も吠ふるか如く響なく、腦膜炎即ち驚風の時ハ耳を穿つか如き號

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

成るへく赤子に薬劑を用ひ間敷と

叫をなし其聲哀にして聽くも愁しきものに候、劇き煩惱より恢復したる時ハだれて氣六ヶ敷く眼に一抔の涕を浮へて泣き、又重病の赤子にして其泣く時に涙を流すハ吉徴と申すへく、之れに反して嘗て泣きたる毎に涙を流したるもの之れを滴さゝる樣になりたる時ハ凶徴と察せらるへきことに候。

今育兒法中赤子の養育法を講述し終るに臨て赤子養育法中最も緊要なる箇條を再言して此編を終り度存候。

赤子の健康なるを望まれなは成るへく藥劑を用ひられ間敷候效能著き藥と云ひなから平素に之れ亦用ひて效あり」と云ふハ人の生命の貴重なるを忘れて私利に走る

三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

前章の摘要

ものゝ言語に候又妄に下劑を用ふるハ宜しからず一回下劑を與ふれハ縱令之れに由て便通を得るも再ひ便秘を來たし再三再四之れを用ひさるを得さるに至る之れ大に害あるとに候又胃腸の病ハ赤子に最も多きものなれバ其食物に注意せらるゝと勘要のとに候此の講義録中に申述たる藥劑ハ皆劇き藥にハ之れなきも之等とても用ふる機會なからんとを望む之れを用ふるの機會なからしめんか爲めにハ平素病の原因となるへきものを心得置き豫防攝生の法を行なはるゝこと大切に存候。

出生以來赤子を適宜に取扱ひ新鮮の空氣を多量に呼吸して肺臓を健康ならしめ、適宜運動を怠らず行ふて筋骨

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を強剛ならしめ、安眠を得せしめて充分に腦髓と身體とを休息せしめ、行水をなして皮膚を清潔強健ならしめ、生後八九ヶ月頃まてハ母乳のみに限り胃に患害を及ぼすとなくんハ藥劑を用ふると稀なるへし藥劑を用ふるとなくんハ其子ハ彌健康と相成るへき筈ニ候

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

空氣の壓力の事

○家内理學（第九回）

第七章　温熱の性質並に効驗の事（下）

空氣は、目にも見へぬ程の者なれども、矢張り相應の目方あるものなり、之を測るには、バロメートルと云ふ、極めて手輕なる道具にて宜ろし。即ち、長さ一ヤードもある極細きガラスの管の一端を塞ぎ、一端に穴明きたるものに水銀を入れ、別に亦た水銀を入れたる器の内へ急に逆さまに反へして眞直に立てるときは、（口の塞ぎたる端上の方へ行きて）管内の水銀、大抵三十インチ程の高さ迄で降りて、上の方に空處を遺こし、其儘定まり居るを見るべし、之れ水銀は重きものゆえ元來悉く下に落ち來るべき筈なるに、外の空氣が器

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の内の水銀を壓す力の相應に强きより、其の壓す力に壓し返へされて降るとの出來ざるものなり、故に空氣の壓力、即ち言を換ゆれば、空氣の目方なるものは、水銀三十インチ丈けの柱に相應するものと知るべし、尤も空氣の濃厚なる時は、此の水銀柱、更らに少し高く登るとあり、又空氣の稀薄なる時は、水銀柱、同じく少し低きく降るとあり、右登り降りの爲めに、二インチ程の差を生ずるともあれども、先づ大抵は、三十インチにて止まるが故に、扨ては空氣の壓力空氣の目方は、右三十インチの水銀柱の壓力及び目方と同じきものなりと假定することゝ也。

一ヤードとは我三尺〇一分一厘、一インチとは我が八

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

高山にて物を煮るの六かしき事

分三厘六毛余なり。

此の故に、高き山に登れば、空氣自然に稀薄と爲り、隨がつて、其の壓力も減ずるものなり、之を以て、高き山にては物を煮るに、大相困難なりと云へり、之は空氣の壓力弱はき故に、水の沸騰すると十分ならざるに由る、富士山の如き山にて料理すれば、容易に此の事あるを見るべし。

砂糖精製に右の道理を實用する事

粗末なる鳶色の砂糖を、上製の結晶糖と爲さんには、一旦前の砂糖を水に溶き、奇麗に洗う樣にして扨て、又た之を乾かし、結晶せしむるとなるに、之を尋常の工風にして、煮ては宜しからぬとて、製糖者は右に云へる理由を適用し、蒸氣械械の力にて、砂糖釜の上の空氣を抜去つて、空氣の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

沸騰點の增減の事

壓力を減じ、左てゆる〳〵と之を煮立つるときは、遂に砂糖は全く結晶して、乾き上るものなり。

空氣の壓力の增減にて、物の煮ゆるに難易あらば、其の煮らるゝ者自身の壓力に增減ありても、矢張り其の煮へ方に難易ある道理なり、之を以て、水の中に鹽類を混ずれば、其混じたる丈け、水か重くなりしゆへに、此の水の煮ゆるは、又其割りに容易く隨て沸騰點の温度は同じく其割りに高くなるべし、例するに、水百に食鹽三十を混ずれば沸騰點二百二十四度に爲り、水百に硝酸ポッタース七十四を混ずれば、同じく二百三十八度と爲り、同樣の割にして、コロールカルシウムなるものを混ずれば、同じく二百六

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

水の球狀形と云ふ事

十四度に爲るべし、其他酒精は九十六度にて沸騰し、アルコールは百七十四度にて、ターペンタイン油は三百十六度にて、水銀は六百六十二度にて、沸騰す、此は又た其目方のみならず、液體の子バリ强きときは、其の自由に煮へ立つことを制すると見へたり。

非常に熱したるもの丶上に、落したる水は煮へ立ちもせず、蒸發もせず、其儘に飛びハ子去るなり、斯く成りたる水を、水の球狀を呈する時と云ふ之は水が餘りに熱したる者に觸れたるより、其の觸れたる所ろのみ蒸氣となり、既に蒸氣即ち温熱不導の體と爲りたる爲めに、其れより上に在る水分に温熱を傳へず、遂に自から反撥して、飛び離

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るゝとあり、故に二百八十八度乃至三百四十度位の温熱あるものに水を置けば、此水乍まち所云る球狀形を爲して、決して煮へ立もせず蒸發もすまじ、然し其の温熱が、漸次に減ずるに隨がひて、水も亦た其の温熱に密接するに至り、此に於て初めて沸騰すべし、此の道理はヒノシの熱加減を知るに於て適用すべし、火ノシに唾を吹き掛け見よ、若し唾が火ノシの表面に附着し、之を濕はし、次に蒸發するに至らば、此れは、未だ左程に熱し居らざるの證あり、然るに唾を吹掛くるや否や、唾點々くとして轉がり行き、即ち球狀形を爲して飛び離るゝを見れば、此れ眞に十分に熱し居るものと知るべき也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

僅かの熱にて沸騰を維持する事

凡そ水類を沸騰せしむるに、之に蓋を爲し置かば沸騰するとも早く、又騰騰したるのちに、更らに其の温度の高く上がるともあるなり、然し若し蓋を開けて置かば、直に沸騰の遲きのみならず、既でに沸騰したるのちは、之れより何如ほどに火を強くするとも、其温熱は悉く蒸氣と共に立ち去つて、少しも其湯を一層に温かくするとなし、又水は一旦沸騰したるのちは、最早や之を何如に荒く沸騰せしむるとも、又之を靜かに沸騰せしむるとも、其の温度には變わりなきものゆへ、凡そ既に煮立ちたるのちは薪を少なくしたゞゆる〳〵に煮て其の温度を維持するの心得大切なり、之を僅かの熱を以て沸騰を維持すと稱す、薪

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

お汁スープなどの冷ゆるとの遲き事

の經濟上有益の心得方なり。水は元來温熱を導くとの不容易なるものにて、中々に輕々しく温熱を外に傳へざるものなり、然れど前節にも說き明したる如く、既に温められたるものが上に浮みて、冷やかなるものが下に降り、其の上下へ入れ代はり、冷たきものが始終火に接するの故によりて、初めて實際には容易に温熱を導くようにも見ゆるとなり、決して水の一分子より他の分子よ温熱を傳へ、而して全躰が遂に熱するに至る、彼の金屬の如きものとは同日の談にあらざるなり、此を以て水の冷却するも亦た同じき順序にて、既に冷へたるものは底に沈み、稍や温かなるものが上に浮み、斯

三二

くて尤も温かなるものが常に外氣の冷かなるに接して、遂に思の外に容易に冷却することなり、決して其一分子が温度を失ひたる爲に、他の分子に影響を及ぼす彼の金屬の如きものとは類を同うせざると也、之を以て例へば、スープの如きお汁の如きものは冷却すると甚はだ遲きなり、其譯は少しく冷へたるものが下に沈み、稍や温たかなるものが上に浮むと申す如く、上下に入れ代はるとの出來ざる故也、成程之を温たゝむるときには、單の水よりも温たまると遲からんが、亦其代として其の冷ゆるとも單の水よりは遲きもの也。

西洋料理のプッヂング、パイ、などと云ふ、多く水分を含

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

蒸氣の潛熱の事

みたる料理物は冷ゆると亦一層に遲し、均しく右に云へる道理によると也。

水は沸騰するには隨分多くの温熱を要す、然し此の沸騰したる湯を蒸氣に變ゆるには、尙一層に多くの温熱を要するなり、例へば氷を煮立て丶、沸騰せしむる迄の時間を一時間とすれば、此の沸騰したる湯を全く蒸發せしむるには、凡そ五時間半を要す、即ち五倍半多くの温熱を要すると知るべし、左れば水一斤を煮るに、百八十度の温熱を要したりとせば、之を同じく蒸氣一斤に變へんには、一千度の温熱を要するならん、然るところ沸騰したる湯は、余程に熱つきが、蒸發したる蒸氣は左程に熱つからざ

蒸發の冷却作用の事

るにより考ふるに、前に申したるほどの多くの温熱は何處へか隱れ居るに相違なし、即ハち蒸氣の中には、多くの潜熱を含むことを知るべし、之を以て前に申したる如き蒸氣一斤を凝結せしむれば、即ハち一千度の温熱を現ハすべし、言ひ換ゆれば、一斤の蒸氣を凝結せしめて、水五斤半を氷點より沸騰點に迄で温たゝむることを得べし、此の故に、蒸氣を管に通じ所々の室内に通して之を温むるを得るなり、即ハち蒸氣が凝結するときに、其の潜熱を發現して以て室内を温たゝむると云ふ

此の故に、蒸發は激烈なる温熱を靜かなる潜熱に變ゆるものにて、即ハち宇宙を冷却するの働らきを爲すものな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り、之を以て何如に太陽は同じく照るとも、濕氣多き國柄に於ては、氣候甚はだ冷やゝかなり、又熱帶地方にても、熱氣に由りて水蒸發し、此の蒸發に由て激烈なる熱度を温かにするなれ、若しも此の蒸發なからんには、熱帶地方の苦熱は、更らに一層に激しかるべし、又人間の皮膚には數百万の小き孔ありて、之より斷えず躰內の水氣を蒸發するにより、躰温を程好き加減にして、幾分か躰だを冷やすの功を爲すものなり、炎暑の比ろ扇子團扇にて顔をあはぎて冷やゝかなるは、一つは此の皮膚よりの蒸發を早くするにより又一つには空氣を動かして彼の蒸發氣を速やかに取除くゆえに由る、微風の吾々を冷やゝかにする、亦

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

た同じき理由に由ると知るべし。濕りたる衣物を着て躰だに害あるは、斯くして身躰の蒸發を余り早くするに由る。地面に水をまきて冷やかを覺ゆるハ蒸發によつて其邊の空氣を冷却にするによる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

三八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○百人一首講義

第四回

鈴木弘恭講
八木鶴二記

中納言行平

行平は。阿保親王の子にて。業平等の兄なり。初め諸王と爲り。天長年中請て在原の姓を賜はり。藏人頭に補し齋衡中從四位に叙し。因幡守に任ぜられ。後ち中納言に迁り正三位に進み。貞觀中太宰權帥たり。仁明天皇より宇多天皇まで六代の朝に仕へて。寛平五年七十六才にて薨ぜり。行平ハ經史に通じたる人でありまして。嘗て獎學院を左京の三條ヱ創立せんとを奏上し。さて經濟の才もあり。風流の聞え高かりし人であります。此歌ハ因幡の國に下る時の歌なるべし。

立わかれいなバの山のみねに生るまつとし聞かバ今かへりこむ。

此の歌は。古今集に題しらずとあります。さていなバの山ハ濃州の稻葉山なりといふ說もあれど。穩ならぬやうです。古今集打聽にもいはれたるが如く。因幡の國の山をたゞいなバの山といへるにて。即ち立別れて徃るといふとを因幡にいひかけ。人の待といふとを松にかけたのであります○いなばハ俗にイナウナラといふことゝ○しハ助

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

辭にて俗にソレといふこと〻〇一首の意は。此度知るべの人々に別れて京都を立出で任國へ下るのであるが。いまわが因幡の國に往うなら親しかりし人々は。やがて任はて〻歸京する日を待であらうが。果して我を切に待つとソレ聞かうなら任限にか〻はらず今にも歸り來やうとなり。別に隱れたる所なき歌にて。たゞ山といふよりして生る松を待に通はして巧みにつゞけたのです〇語格は。一段切れの歌にて。指辭なしにこむといふむにて結べるは。徒の結びにて切れたる格であります。

在原業平朝臣

業平は。行平の弟にて。阿保親王の第五子であります。從四位上右近衛中將たりしより。世呼で在五中將と稱したり。元慶中五十六才にて卒去されました。業平も博才風流を以て名高かりし人でありましたが。東國へ下りしとき武藏國隅田川にて。名にしおはゞいざ言問はん都鳥我おもふ人はありやなしや。とよまれしは。今も世間の人がよく知りております。又その子に棟梁滋春などいへるは父におとらぬほどの有名の歌人でありました。

ちはやぶる神世もきかず立田川からくれなゐに水く〻るとは。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

此の歌は。古今集にのせてありて。詞書に二條の后の春宮のみやす所と申ける時に屛風に立田川にもみぢながれたるかたをかけりけるを題にてよめるとあり○立田川は大和の國の名所なり○からくれなゐは。韓呉藍にて今の紅染之。紅色はもと三韓より渡りし呉染が尤もうるはしかりしゆゑに。好き紅色をからくれなゐとはいふ之○くゝるは。絞る之。天智紀に纐纈を外國使に賜ふことが見えてありますから。此の頃より巧みに絹布を絞りて紅染にすることが流行したることにて。今の緋絞といふもの（縮緬や絹を絞りたる）と同じことであります。またちはやぶるは神といふへかゝる冠詞之。ちは威稜之。はやぶるハハヤルことにて。ちはやぶるかみとは。威稜の隆盛なる神といふ意にて。神を稱美したる義之。然れども此の冠辭なるものは。總て詞辭を優調にのぶる爲に多くは用ゐることにて其意は輕し。たとへは。久堅の天。新王の年。など云るも。たゞに天また年ともいふべき所に。ひさかたの。あらたまのといふ冠辭を加へたるなり。今此の歌もたゞ神世といふべき所にちはやぶるの冠辭を加へたる物と知るべし○一首の意は。神代にはさまざまの珍奇ことも多くありましたが。その神世にも聞きませんでした立田川の水を韓紅に絞るといふ事は。さてもさても面白きことであると。紅

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

葉の水上に散り浮きて流るゝを纐纈に見做してよめる之〇語格は。一段切れにて。神世ものもが指辭にてきかずのずにて結びて切れたり。さて五の句の水くゝるとはといふより上へ打返して意の通ずる格であります。

又云。業平朝臣の歌は。今古集の序にも。情あまりて詞足らず。と貫之ぬしが評じたるが如く。月やあらぬ春やむかしのはるならぬ我身ひとつはもとのみにして。といへる類の歌が多くありますが。此のちはやぶるの歌とかの都鳥の歌との二首は。至りて申すむねなきうたであります。故に定家卿は。此の歌を業平朝臣の歌中の傑作として採られたのでありましやう。

藤原敏行朝臣

敏行は。大織冠鎌足六世孫。按察使富士麿の子之。少き時より書を能くし。また詠歌にも長じたりければ。早くよりその名を世に知られました。仁和の朝より寛平延喜の朝までも仕へて。從四位上右衛門督たりしこと。拾芥抄に見えました。後ち村上天皇の時小野道風を召して。古今の妙筆は誰ぞ最上なると問はせ給ひけるに。空海並に藤原敏行。此の二人にこそはべれと答へ奉りしとぞ。これにてもその非凡の能書なりし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ことは知られます。

住の江のきしによる浪よるさへやゆめのかよひぢ人めよぐらむ。

此の歌は。古今集にのせたる戀の歌也。詞書に寛平の御時きさいの宮のうた合のうたとあります。さて住の江は攝津の住吉の浦のとなれど。一二の句は意なし。よるといはん爲めの序なり○よるさへは夜まで也。浪の寄るといふ語路より夜といふへかけたのであります○よくは。四段用格のよくにて曲道なといふよきにおなじ。我の方から世間の人目を憚りて避る意です○一首の意は。戀といふものは世間の人目を憚るために。晝夜あくせくして心配のたえへまがないが晝女のもとへ行くのは勿論。夜女のかたへ夢の通ふのにまでドウシテ人目を避るものであらう。といへるにて。忍ぶなかは現よりもちろん夢にもうち解けたる心ちのせぬさまをいはれたるのであります○語格は。一段切れの歌にて。よるさへやのやが指辭にて。よくらむのらむにて結びたるのであります。

伊勢

伊勢は。伊勢守藤原繼蔭の女なり。父伊勢守たりし故に伊勢と呼べり。さて是は呼名

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

にて實名には非ず。實名は詳ならず。すべて昔は男女とも實名はいはぬ習ひなれば。女は父或は夫などの官名を呼名とせり。初め宇多天皇第四の皇子敦慶親王の御心にかなひて中務女王を生み。親王早世ありしかば。宇多の皇后なる七條后に仕へ奉り。後ち宇多天皇に召れて。行明親王を産奉りしゆゑに。伊勢御とも。伊勢の御息所とも申しました博學にして詠歌を巧みにしたる女であります。

難波がたみしかきあしのふしのまもあはでこの世を過してよとや。

此歌は。新古今集にのせたる戀の歌なり。男のつれなくうと〳〵しくありたるをうち歎いたのであります〇難波がたは。攝津の難波の浦のこと之〇みしかきあしの。難波は蘆の多く生ひ茂れる所なれバ。古へより歌にも文にも蘆の事をいへり。此所は短き蘆は節の間も約りて短きゆゑに暫時の間もといはん爲に取出たる之〇過してよ。よは希求言にて即ち命令する詞なり。すぐしてあれよといふ義之。てあれよのあれを省きててよといふ例之〇とやは。とゆやあらんの略なり。にあらんを省きてとやといふが常の例之故に此のやは指辭のやであります〇一首の意は。難波潟に生てある短かき蘆の節間の如く。暫時の間も男の我に逢ないのは。モハヤ一生涯一寸も逢ないで年月を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

過してしまへといふこゝろであらうかサテモサテモ薄情な男の心であるわいと歎息したるゝ○語格ハ。一段切れの歌なれど。結句ハてよみて切れたる所へとやの一言を添へて結べるゝ。すべてとハ接續詞なれバ。何所にてもともじのある上にてハ一度切るゝ例ゝ。その切れたる言をとうけて下に接くるがとの用法なり。是ハ歌にても文にても同じ例であります。

元良親王

親王ハ。陽成天皇第一の皇子。御母ハ主殿頭遠長の女であります。三品兵部卿におはしまして。天慶二年七月御年五十四歳にて薨し給へり。風流のかたに御志ふかゝりし宮であります。

わびぬれバ今はたおなじ難波なるみをつくしてもあはんとぞ思ふ。

此歌ハ。後撰集にのせたる戀の歌ゝ。詞書に。こといできてのちに京極の御息所につかはしける。とあり。親王忍ひて此の御息所のもとに通ひ給ひけるを。あらはれて不都合になりたれどなほ思ひ切れじとて此の歌をつかはしたまへるゝ○わびぬれバわびハ志を得ぬとゝ。小兒のぢれて泣くをわびなきといひ。世間を厭ひて住居するをわび

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

すまひといふも同じ意ヿ〇今はたハ。今マアマタヿ〇難波なるハ。難波にあるあり。ニアルを約むればナルとあるヿ〇みをつくしハ。澪標とかくヿ。水豚をみをといふ。くしハ杭ヿ。海水の遠浅なる湊にハ舟の通行すべき水路を示す爲めに海中に票杭を建おくものなり。これを澪標といふ。即ち東京にても高輪などの海中にありますが。難波のハ名物にて歌にも多くよみます。さてその澪標を身を盡てといふに云かけたのです。身を盡してハ。命にかけてもといふに同じ〇一首の意ハ。さてマア。若心してドウ思案して見ても。我心ながら我心のまゝにならぬとにナッテシマウタガマア。然し今ヂヤと云て戀しと思ふ心ハ同じ事である。されば難波の海中に澪標といふ杭があるが。その杭の名の如く身を盡し命を捨ても御前に逢ふと思て居るとであるとヿ。たとへ世間の人がいかにいひ騒ぐとも我心ハ決して變らず。戀しき心ハ同じとにてます〱愛戀の情の耐がたき意を述へられたのであります〇語格ハ。二段切れの歌にて二の句と三の句にて切れました。二の句の今はたおなじハ指辭なければ。徒の結びヿ。五の句ハあはんとぞのぞが指辭にて思ふといふ連躰言にて結んだのであります。

正誤　前回。河原左大臣の歌。ーのぶもちずりの注よ。忍草を云くとあるハ誤なり。ーのぶハ草の名の忍に非ず。地名の信夫郡の信夫なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○小供のはなし

第十一回　まゝしき兄妹

兄は妹の手を取りて「お母さんの逝き玉ひし其後は一日とても幸なる日はなく今の母さんとハまゝしきおか毎日打たるゝやら蹴らるゝやら食物とても六ゝに食れもせず犬猫に劣りたる身の有様なき母上の見玉はんにハ嘸や嘆き玉はんよイッソ今より野山に行き憂き苦を遁れずやと」二人ハ陰かに家を出で荒れ果たる野を過ぎて叢み茂れる森に至る頃ハ日ハはや森に呑まれて樹下影暗く小雨シポゝゝ天も亦涙を垂るが如し二人は心淋しくも樹影に宿を借り僅かに醒めば晒さす日東に昇りて其光緑の葉を透し最と心地よし兄は頻りと渇を覺ゆるものから妹と共に小河ハ何所と徜徉ふて木の葉くゞる流を見付け至りて見れば心醜き繼母の魂の其所ゑ移りてやこの水を飲めは其人虎となると云ひつゝ流る心地せしかば妹は、兄上虎となり玉わば我身をも食もせんと思ひ飲むことを止めければされば次の河まで忍ぶべしと二人打ち連れ行く程に小さき河あり水清かなり岩に砕けて流る音を聞くにこの水飲めば其人狼とならんと云ひつゝ流れば妹の止むるに茲處にも飲むを得で暫し行きしが何分渇きは酷しくなりて最早忍ばるべうもあらず此次は妹如何に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

云ふも飲みて渇を醫さんものと幸ひの流れ其所にありけるまゝイデ飲まんと思ふ時復聲ありこの水を飲まんものは其身變して鹿となるべしと聞ふも兄上鹿となれば孤り我身を如何よせんと妹の止むるをも聞ず一滴唇を濕せば其身は化して鹿となりましたものから互に嘆き悔みましたが盡ぬとゆゑ妹は己か首飾を拔きとり兄なる鹿にはめ共に林深く行ます程に小さき一軒の小家かありました誰かあると音信るに人の氣色もなしこれぞ我等の住家ぞと其所に住居て妹は毎日木の實草の實を拾ひ來りて己が食となし青き若葉は鹿の爲めにと摘み來り日ゝを暮せしが或日國王狩に出て玉ひて犬の聲鉋の音喧し其音を聞きて鹿は面白さ堪へ難く狩場に出てゝ見まほしと妹に乞ふ切なれば妹は必す夜は歸り玉へと約しつゝ戸を開けました鹿は快げに飛び廻る王は遙かに見玉ひてアレ射て取れと命ぜしかど中ゝ捷く敗け隱れ遂に日暮となりたれば鹿は歸りて戸を叩き中に入りて快よく首を伸べ妹を枕として眠りまして目覺ば又もや笛の音犬の聲耳に入りて昨日の樂思ひ出し再び妹に乞ひて出で行きました首の金環は朝日に映りて人目に立ち獵師の注意をば引く度ゝなり王は如何にもしてこれを生捕ばやと獵人に求めしに中ゝ捕へ難ければ獵師は一發を放せしに後の足を少しく傷けましたそれゆへ前の如く捷くは走り得で其家に歸

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

りました其後を猟人は付け至り始終を篤と見終り王に告げましたそこで王はモ一日の狩を始めました其音を聞く鹿は行きたさに堪へ難く幸ひ傷は薄く妹の深切にて癒へたれば是非にモ一度行きたしと申すまゝ又以前の如く晩には必ず帰りて戸を叩き玉へとて放ちやりましたソコデ日の晩るゝまで楽しく走り回りました日の暮る頃王は猟人に導かれて彼の家に至り戸を叩きまするを内より兄さんお帰りと容美き乙女か出て迎へましたに兄にはあらで最と立派なる人の立て居るを見て驚きて仆る其風の可愛さ抱き上げて其の來歴を尋ね且つは其身の事をも申し聞かせまして遂に妻とし迎へんと申しましたに最速承知致しましたが私には一人の兄がありまする其兄をも伴ひ玉われたしと云ふおり鹿なる兄は帰り來ましたゆへ其鹿となりし次第をも告げ王と共に宮に帰り花々敷婚禮の式を終へまして其鹿をも王の花園に馴ひ置きました然るに彼の継母は家に在りて思ふにハ兄は既に鹿となれば最早人にや射られしならんさすれば妹は獣にや食はれしならんと思ひの外花の都のたよりを聞くに今は九重の宮に咲き香ふとのことこれにひきかへ現在我が血を別けし娘は不幸にも片目にて何日か花咲く春に遇ふことかなと思ひくらべて妬ましさ限りなく幸ひ王宮にて乳母を求むるをきゝ身を乳母と偽りて宮に入り媛を沐室に招き入れ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

戸を閉して下より火を燃やし焼き殺し其代りに己か娘を連れ來りて媛の衣を着せしめしも其面の醜きは僞り樣もあらざれば假面をは被らせおきました王は宮に歸りて玉の如き子を見て一方ならず喜び玉ひ母親はいかなるらん見まほしと室ゑ入るに假面して面も見へず媛は亦假面を取ることを嫌ひしゆへ其儘其夜は眠りしに其夜より幼兒の室に來り乳哺ませ歸る者あり何ともわかず暫くは言葉もなくて飛ぶが如く來り又飛ぶが如く去りいかにも怪しきことゝ思ひしに或夜歸るさに我が子よ我が鹿よ吾れの爾を見るも僅かに三度のみぞと悲しむか如く云ひて去りましたこれを聞きし宮女は委細を王に告げしに王は驚き玉ひて我其實躰を見るべしと其夜子供の室に入りて待ち居りしに果して怪しの物來り我子ヨ我鹿よ吾れが爾を見るモ一度のみと云ひ去りぬ王は可畏さに堪へずて只見てのみ居たりしが今晩こそと待つ程に又もや來れば王は力をこめてこれをつかみしに怪の物と見へしは案に違はず眞の媛でありました媛は王に問はれて彼の繼母か僞りて入り來り浴室に招きて殺さんとせしこと其より人しれず彼の鹿に助けられて忍び出で母の惡事を隱さんため身をは隱さんと思ひしも我子の愛にほだされて夜る〳〵迷ひ來りしが王に見付られしは嬉しけれど母上の惡事が顯はるゝぞ悲しとて泣に王は樣〻に慰め遂に再び王

五〇

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

宮へ迎へ取りましたが彼の母の惡事と申すは只其子を妬みしのみに止まらで國王までも欺きし其罪は宥し難しとて裁判所ゑ呼び出し其娘は粗き獸の餌となれと深山へ放ち母は森にて燒き殺しました其生命の絶ゆる時兄なる鹿は其形を脱き去りまして元の人間となりまして王に仕へ奉りましたより其國は愈治まり二人の兄妹は人間社會の至上の幸福を得ました。

第十二回　正直な樵夫

一人の正直な樵夫がありました其名を瘤市と申し近所で大層賞めて居りますがなぜ此樵夫が瘤市と云ふかと尋ねて見れば頭の上に大な瘤があるからだと申します、ある日例の如く山へ木をきりに參りましたが今迄静なよい天氣であつたに忽ち一天かき曇り大風大雨となりましたその上に雷が手傳ひますから今にも地が裂け天が潰れ落ちそうです瘤市は慌てゝ傍の木の根に倒れ伏して居りました、暫くするとだん／＼風も雨も雷も静かになるようです「正しき道をば行く者は、恐るゝ者とて世にはなし。曲れる人は世にありて、悲しみなかん何時までも」ト瘤市の傍らに大聲にて唱ふ者あり聲に從て美妙の音樂耳を澄す計りです瘤市は恐る／＼頭を擧て見れば十四五人の天津乙女がさま／″＼の樂器

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を調べ踊舞ものあり唱ふ者いと樂しげに遊び居れり一人の天女は瘤市の傍に來り「御身も共に我輩と遊び給へと申します故瘤市は喜で傍にある木の枝を取て無遠慮に跳ましたが大そう天女の氣にいりまして今一度今一度と所望されて四五度も跳りましたソレカラ後はいろ〳〵の御馳走になり腹一ぱいに喰べてイザ歸らんとする時一人の天女は瘤市に向ひ「御身が今日の踊舞はいとめづらしく覺へたれば明日も此處へ來り給へさりながら下界の人は約束を違へて意とせざる者多し、御身の如きは正直の人なれば左樣のとは非ざるべしとは云へ念晴しに何か大切な物を質として置き賜へ見るに衣服も垢付きたり斧とても價ある者に非ず幸あるかな頭の上に大なる瘤あり其瘤を預り可申とやがて天女は手をもて其瘤をもぎ取りました瘤市は大に喜びてさて〳〵邪魔者を拂ひしとのうれしさよと勇んで村へ歸り近所の人〻を招て其話しを物語りマシタ、處がその隣に矢張頭の上に瘤のある若者がありましたが瘤市が邪魔物を天女に取て貰ひしとの話を聞て羨しく思ひ翌日瘤市の山へ行かさる先に己れ先づ山へと赴きました昨日瘤市が話せし場所に天女の來るを待て居りますとなる程瘤市の話せしとうり大わらしが來ますやがて靜になり音樂が響き渡りますから不正直な若者は亂暴に木の枝を持て跳り出しました天女等

五二

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は瘤市ならんと見れば知らぬ若者故大に怒り昨日瘤市より取りし瘤を出して若者の頭になげ付けたれば先の瘤の上に又一の瘤を増した故若者は驚て取らんとするも取ると能はず醜き上になほさら醜き頭となり重き首をかゝへて逃げ出しました天女はみな聲擧げて唱ひ囃すを聞けば、

　正しき道を行く者は、驚ろく者とて世にはなし、
　曲れる人は世に在て、かなしみ泣んいつまでも、

瘤市は正直に山へ出懸ましたが既に天女等の歸りた後で邪魔ものを拂ひ得て喜で歸りましたと云ひます。

第十三回　慾婆

或る一人の老たる漁師一日釣に出で大なる魚を釣りました餘り大なる魚でありましたゆへ驚きながら見て居れば不思議にも其魚が口を開きて物を云ふには吾は龍宮の大王なるが今日戯れに魚の形を取りしに不幸にも爾に釣らる爾もし吾を放ちなば爾の望む所のもの何にまれ與へんと申しました漁師は惘れはて直ちに其魚を水に歸し急ぎ家に歸りまして其次第を妻に告げました妻は大に喜びそれは幸なる事なり今日は既に飯米も食ひ盡し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

晩の食さへなき有様急ぎ海に至りて食物を與へよと願ひ玉へと勸められまして漁師は海邊に立ち聲を揚げ「魚よ今日吾が釣りし魚よ爾實に龍宮の王なれば我に食を與へよ」と申しまするど波間を破りて大なる聲にて歸り見よ爾の妻は既に食を供へて爾を待てりと申されましたゆへ歸り見れば其の如く妻は金の蒔畫したる皿に銀の箸を添へ山海の珍味處狹しと列ねてありましたそれより共に喜び其食事を終へましてまづ滿足と思ふ時妻は斯の如き價ある器物を得しもこれを入る家なく誠に不釣合の至なり願ふ所は其家も共に得たしと又其夫を勸めて海にやり聲を揚げ「魚よ今日吾が釣りし魚よ爾實に龍宮の王なれば我に一つの家を與へよ」と申さしめましたゞ魚は又歸り見よ妻は既に家を得て爾を待と申しました漁師は急ぎ歸り見ば妻は三階の高樓の上に在り金を刻み玉を彫り輝く中より聲を放ち我良人よ我等既に此の如き家を得たりされど我か服は見苦しくして此家に住むべからず急き海に至りて服を與へよと申されよと申しました漁師は余り度々にて氣の滞とは思へども妻の願の切なるゆへ又もや海に至て聲を揚げ「魚よ今日我が釣りし魚よ爾實に龍宮の王なれば我妻に服を與へよ」と申ましたに又以前の如く歸り見よ爾の妻は既に服を得て爾を待つと答へました漁師は直ちに歸りましたに妻は錦の衣を着金の沓を穿

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ち其良人の歸るを待ちて居りました良人は最早これで滿足ならんと思ひ妻に向ひ他に更に願はあるまじと申しましたに妻は「少しも私の心は滿足しませぬ今は昔に比して尙足らざる思がありまして自づと心も居ち付かず只此上は此國の王となれば滿足ならん如何にもして王となり申さん私が願ふところ此の一義でありますドーカも一應魚に願ひ王いれたし」と申しましたなれど漁師は既に度々申し出で法外の身分となりしに今又一國只一人なる王とありたしと願ふも得らるべきにあらず又願いるべき事にあらずと申しますれど妻は聞かぬものでありますから致し方なく又海に至り「魚よ今日我が釣りし魚よ爾實に龍宮の王なれば我妻を王となし玉へ」と願ひましたに又以前の如く歸り見よとの答へがありましたゆへ歸り見ますれば門の外には數多の番兵があります殿の内には音樂の音が聞へます尙進みて見れば數十の宮女は花を競はして彼所此所に走りて居るゆへ此の勢にては妻も定めて滿足ならんと其室に入りましたに妻は金の冠を頭に戴きながら側の象牙の机に倚りて居て何か物案じ氣な顏付何事をば思ふぞと尋ぬれば「望が足りて愈望が多くなり今は一國の王ともなれば別に願ふ事とてもなく望が滿ちし如くなれど其願ふ事のなきが却りて憂の種となり何を望まんかと思ひ勞れて最と苦し」と申しましたが

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

暫くして「望む事なきゆへ殆んど死すべく思しが今一つの望ありそれは我身の醜き形をして金の如く輝き我顔も玉の如く作り變られん事なりドーゾこの事魚に願ひくれ」と申しました漁師は殆んど困し果て如何にせばやと思ひしに若しこの事を魚に願はずば妻は必定案じ煩ひ死すべしこれも不愍と又候魚に其事を願ひましたに歸り見よとの答に喜び歸れば成る程妻の願の如く其顔は玉の如く其全身は金を塗りしも全く石像となり果てゝありました漁師は非常に驚き又大に恐れまして直ちに海に至りて妻が慾の深かりしこと慾の為めに遂に其身を滅すに至りしことを悔み再び元の漁師とならん事を願ひまして前の漁師は家に歸り日々の業に力を勵まし人を羨まず只自ら力を盡しましたゆへ富めるにはあらねども又不自由なく老年に至るまで生き長へましたが或時隣人に向ひ昔し語をなす序に昔し王となりし時の快樂よりも今日漁師となれる樂が多くありと申されました。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

助辭の稱の起原

○文學一斑（第十一回）

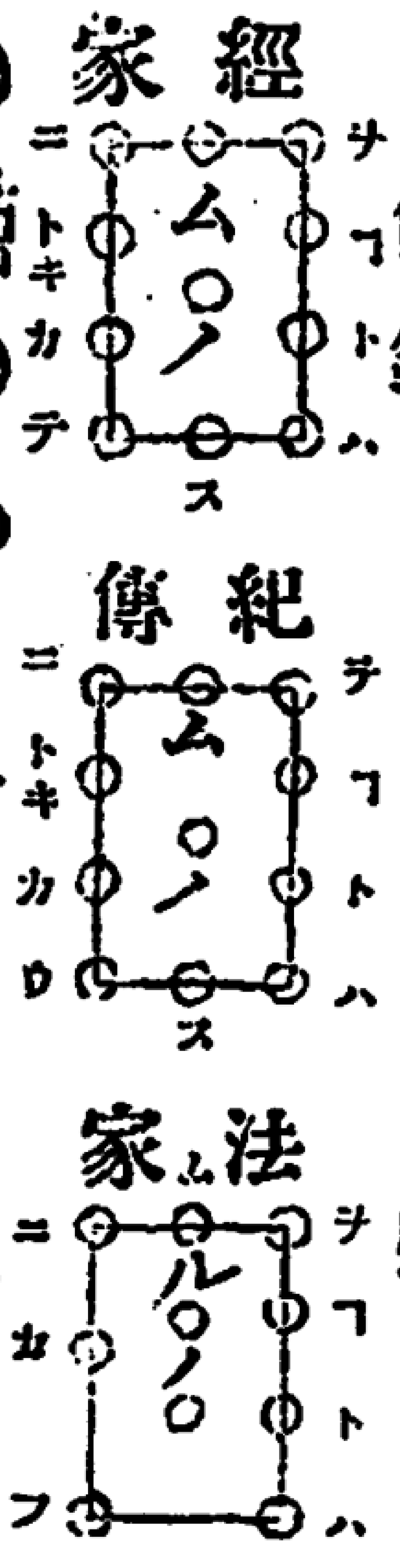
語格（其七）

○てにをは

言語の下にありて用言等を承る助辭をテニヲハとハ云あり。この稱の起原ハいにしへ漢籍を讀む便に文字の四隅上下に點をほどこしヲコトハ、ニトキカテなど讀たるより出たり。その點を始めはヲコト點といひたりしが後にはヲコトハ、ニトキカテ等の字をひろひとりてテニヲハと呼なすことゝなれり。定基卿の野記にをことハもと南都法相宗の隱點なるが其後いつしか儒家に轉用してより故實とハなれるなり」といへり。諸家點圖を按ずるに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其載るところ凡て十七家にして多くハみな寺院に傳はる所のものなり。然ど縉流にハはやく絕て後にハ博士家にのみ傳へしなるべし（好古餘錄）こゝに古き物より二三の點圖を採錄して示さん



かくの如く文字に點を施しその點のありどころに因てヲコトハ等の詞を添て讀たるなり。然バヲコトといひ又變じてテニヲハと云も他の一の詞にそへ加へていふ短き一種の辭にて其數ハ多かれど口に稱へ易く唯ふたつ三の辭をとりてヲコトともテニヲハとも云るハ四十七文字の假字をイロハといひ慣へる類なり

偖てこゝにはテニヲハの短かき辭につきて一つ一つく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第一階將然言を承るテニヲハの事

どくしくハ説明さゞれど俗言を當てその意の大畧を示し古き歌集どもより例をわけて一つハその助辭の用ゐざまをさとらせ一つハ俗譯の違ふまじきを證す。テニヲハは上なる係り辭によりてその結を異にし自づから意義も亦たかはれバ此れ等のことを辨へしむるも肝要なれど學の便をはかり此ハ暫らく後にまはすべし前に圖をあらはして用言の活用を示しその段階ごとに助辭をも掲おきたれバ圖と照合せて悟り易からん爲にまづ用言活用圖なる正格用言（四段より下二段までを變格に對して正格といふ）の五階の言を承る次第にしたがひて第一階の助辭より左に説示べし

第一階將然言の助辭　ば　ハ　事情を差別する辭にして

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば　ず　で　じ

俗にタラと譯すべし。又ウナラヤウナラなど副て語意のあらはるるもあり　住まば住まウナラ起きば起きヤウナラ得ば得ヤウナラ見ば見タラ等の如し　古今集上春「をりとらば惜にもあるか櫻花いざ宿かりて散までは見ん」とら(取)は四段活用の第一階將然言にしてばは第一階を承る助辭なり、とらばは取ッタラ、取ウナラなど譯せば意明らけし

ずは不の字の意にして俗にはナイと譯すべし　ずは活らく助辭ゆゑに「絶えず行く」「散らずはありとも」など活らくずあり、此を連用言のずといふ委しくは後にいたりて更に説示すべし　古今集上春「人はいざ心もしらずふる里は花ぞむかしの香ににほひける」しら(知)は四段の第一階將然言なり知らずは知ナイと譯せば意明らけし

では不に而をそへたる意なれば俗にナイデといふ語に近し　飽で、飽ナイデ、思はで、思はナイデ、見で、見ナイデ、などのごとし　古今集五戀「色みえでうつろふものは世の中の人の心の花にぞありける」みえ(見)は一段活用の第一階將然言してでは將然言の助辭なり、見えでは見えナイデと俗に寫し見ば意あきらけし

じは不の字の意なれどずは斷定し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

む

ていふ詞にしてじハ少しく未定の意あるが故に俗にハマイと譯すべきなり。古今集春下「花の木もいまハほりうゑじ春たてバ變ろふ色に人ならひけり」うゑ(植)ハ下二段活用の第一階將然言なり、うゑじハ植ゑマイといふ俗言に譯せバ歌意おのづから明かなるべし

むとましとハ其意はゞ同じくして倶に將の字の意なり。四段の活用、奈行變格の活用、羅行四段一格の活用より接くれバウと譯し　おさ(押)む、押ウ、いな(往)まし、往ウ、あら(有)む、有ウなどの如し　其他の活用より接くるときハヤウと譯す　み(見)まし、見ヤウ、おき(起)む、起ヤウ、うけ(受)まし、受ヤウ、こ(來)む、來ヤウ等のごとし

古今集夏部「わが宿の池の藤なみ咲きにけり山ほとゝぎすいつか來なかむ」なか(鳴)四段の將然言にしてむハその助辭なり鳴ウと譯し見るべし

同上春「君ならで誰にか見せむ梅の花いろをも香をもしる人ぞしる」みせ(令見)佐行變格將然言の活用なり、むをヤウと譯して見せヤウといふ意に見るべし

同上秋「ひとりのみな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なん

第二階連用言を承るテニヲハの事

て

てとでと混ずまじき事

がなるよりハ女郎花わがすむ宿にうゑて見ましを　み(見)一段の活用の将然言なり、ましはヤウと俗に寫し見バ意明かなり、歌尾のをハものをの意にて詠歎の詞なり　なんハ願望の意あり。然るからに此なる将然言を承るなんを願のなんとも謂のなんとも云り。俗言にてハタラヨカラウの意なり。拾遺集「をぐら山みねのもみぢ葉こゝろあらバいま一度の御幸またなん」　また(待)四段の活用将然言なり、なんにタラヨカラウといふ俗解をつけて待ちタラヨカラウといふ意にして見バたがはじ

第二階連用言の助辭

てハ俗言のてと異なることなし強て解バさてなどいふ意ありと云べし。後拾遺集「さびしさに宿を立出でゝながむればいづくも同じ秋の夕ぐれ」　いで(出)下二段の活用連用言なりてハその助辭にして宿を立いでサテながむれバといふ意に解くことを得べし　此なるてと将然言のでと混じやすし。然ど彼ハ濁り此ハ清り。凡て清濁により

六三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て甚だしき相違を生ずれバ心して辨ふべきことなり。古今集雜下「わが心なぐさめかねつ更科や姥捨山にてる月を見て」（見てのてハ一段の活用第二階連用言の助辭なれバ濁て讀むべきなり）この歌を或る盲人がて文字を濁りて照る月を見でとして己が歌とせしことありといふ（本歌の意ハ「てる月を見て慰めかねつ」といふなるを濁りてでといへバ「見ナイデ慰めかねつ」といふ意になるが故に全く反對となれるなり、但してハ將然言の助辭にてナイデの意なればなり）又新古今集冬部「庭の雪にわが跡つけていでつるを訪れにけりと人や見るらん」といふ歌のつけてので文字とはれのは文字とを濁りて狂歌とせることもあり。それてを濁らバつけでとなりて着ナイデといふことになりはを濁らバとばれとなりて飛れといふことになるべければなり斯れバ歌よみ文かくことのみならず古書

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を讀んにも音の淸濁ハ注意すべきことゞもあり

たり

たりハてありの約りたる言なり。漢藉の訓點に瑟たり僴たり。又窈窕たる淑女などあるハ體言を承るなればとありとあるの約りたる言にて此なるとハ別なりさて此なるたりのてありの約言としらるゝハ古事記にもたりけりを而在祁理と書せり。萬葉集六卷「わが宿の梅さきたりとつげやらバ來ちふににたり散ぬともよし（さき(咲)四段の活用第二階連用言なり、たりハその助辭にしてテアリと譯して意たがはず、に(似)一段の活用連用言なれバ此も亦たりをテアリと譯して似テアリと心得たらんにハたがふふしあらじ）

つ

つハ止の字の意にて既に終たることをいふ詞なり。俗にはタといふ意にして、いひつ、見つ、きゝつ、思ひつなどいへるハ言タ、見タ、聞タ、思タと譯すべきなり。後撰集の歌に「花

六四

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

みにと出にしものを秋の野の霧にまどひて今日も暮しつ」とある暮しつも暮タと譯して意あらはるべし

けん

けんハ來有將の意にて過去を料度したる詞なるが故にタデアラウと俗解せバ違はじ。後拾遺集「夏の日になるまで消ぬ冬氷はるたつ風やよきてふきけん　ふき(吹)ハ四段活用の第二階連用言にてけんハその助辭なり、吹きけんハ吹タデアラウと譯しなバ歌の意おのづから明けし

けり

けりハ來有の意にして過去より現在にかゝる詞なり。俗にタジヤと譯すべし。六帖に「をる人の心のまゝに藤袴うへも色こく咲てみえけりとあるみえけりを見えタジヤと俗に寫し見バ歌の意も悟りやすかるべし

なん

なんハ去將の意にて未來をおしはかりていふ詞なり

將然言のなんぬとの區別

こゝのなんおよびぬを第一階將然言のなんぬと混ずべからず、此のなんハ常のなんと云てなんなめとやうに活らき、將然言を承るなん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぬ

き し

ハ願のなんといひて活らくことなし、此のぬハ終止言にしてなにぬぬるぬれねと活らき將然言を承るぬは連躰言にしてずぬねと活らくなり、助辭の活用のことハ更に委しくいふべし 俗に譯せバマショウといふ意にして飽なんハ飽マショウ住なんハ住マショウ釣なんハ釣マショウなり。拾遺集「としの內に作れる罪ハかきくらしふる白雪とゝもに消えなん きえ(消)下二段活用の第二階連用言なり、なんハその助辭なればマショウと譯し消えなんを消えマショウとせバ違はじ

ぬハ去の字の意にて現在より未來へゆく詞なり。俗言の夕に當れり。思ぬハ思ふ夕押ぬハ押夕といふ意なり。古今集春上「春きぬと人ハいへども鶯のなかぬかぎりハあらじとぞ思ふ き(來)ハ加行變格第二階連用言なり、ぬハ連用言を承る助辭にして夕と譯すべし、春きぬとハ春來夕との意なり、一首のうちある鶯のなかぬのぬハ第一階將然言をうくる助辭のぬなればハ俗言にてナイといふ意なり、なか(鳴)ハ四段活用の第一階將然言にして即ちなかぬ限りハ鳴カナイ限りハと譯すべし、是にて將然言を承るぬと連用言を承るぬとの分別を悟るべし

きとしとハ倶に過去の事をいふ詞にて俗

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

言にてハタッタといふ意にして思ひき住みき打ちし飽きしハ思ッタッタ住ダッタ打タッタ飽タッタと譯さるゝなり　同じく過去の詞にしてきとしとの二やうあるハ上の係り辭によりて或ハき或ハしと結び止むるが故なり、但しはも徒の係辭のときハきにて結び、ぞのや何の係辭のときハしにて結ぶなり、この他に過去の詞にてしかといへるありこれハころの結とあるあり、是も亦連用言を承る助辭に屬す　後撰集「風にしも何かまかせん櫻花にほひあかぬにちるハうかりき」うかり(憂く有)ハ良行四段一格の第二階連用言にしてきハその助辭なり　古今集「みどりなる一つ草とぞ春ハ見し秋ハいろいろの花にぞありける」見ハ一段活用の第二階連用言なり

正誤　第十號六頁七行係辭にありてハ。よりてノ誤

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

六八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

露、霧、雲は水蒸氣の凝集したるものなり

○地文學講義

第四回　空氣

第四章　露、霧、雲

日沒の後、空が霽れて在る時には、草に露を生ず。又朝たと成れば、森、流、小山などの上に、霧霞を生ず。而して雲は年中、出沒隱見、もしくは集散離合して、其日、其時に種々さまざまの形ちを生ず。以上三つのものは、其形に色々の相違はあれども皆な是れ、彼の水蒸氣なるものゝ凝集したるより起るとなり。

扨て、此の凝集なるものは、既でに前にも述べたる如く、元と、空氣が冷却したるより起ることなり、空氣冷却して、其

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の含み居たる水蒸氣隨つて凝集し、遂に右に云ふ如き。色々のものを生ずるなり、但し水蒸氣の凝集したるものは、初めより直ちに水の如く流るゝものと爲るにもあらず、先づ、カスミ、クモリ、段々と凝つて、遂よ水となるなり、喩へば、冷やかなるガラスを、温かき部屋の内に持來りて見よ、最初にガラスの面てに出來るものは、クモりたるカスミの如きものならん、尤も之を能く細かに視るときは、亦是れ極めて微かなる水の分子なるが、先づ以て一種のキリ、カスミの如きものと云ふの外なし、然るに、此のカスミの如きもの、左右上下前後より段々と集まつて、遂に點々たる水に爲つて落るなり、天地間に現はるゝは、即はち之を

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

露

大仕掛に爲したる迄にて、水蒸氣凝集して、先づ霧ともなり、雲とも爲り、又た露ともなる、皆是れ水蒸氣が雨と爲ると道理は同じきと也。

左れば、夕もしくは夜、即はち太陽沒したる後に至り、草、木の葉、石もしくは其他種々の曝らされたるもの丶表面に、露を生ずべし、之は、固より右の草や木の葉や石なんどよりり湧き出でたるにあらず、恰かも、彼の温室内のガラスにカスミの生ずる如く、必竟空氣中の水蒸氣が凝集して、其表面に附着したるに相違なきなり、蓋し、彼の草木石などが、晝の間だ太陽より受取つたる熱を、夕に至りもしくは夜に入るや否や、之を失ひ去つて、大ひに冷却するを以て、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此の冷却したる草木石などに觸るゝ所ろの空氣は、又隨つて冷却せざるを得ず、即はち前章に述べたる如くにして、此の空氣の温度は、浸滿點と爲り、遂に結露點と爲つて、則ち露を置き初むると也。然るところ、夜に入つて、若し天に雲なきときは、地上の凡てのものが、其の温熱を放出し去ること、甚はだ多きものゆへ、(若し雲あれば、雲に遮ぎられて、下より温熱の放出すると少なし、雲なければ、廣漠なる天に向つて温熱を放出するとゆへ、其量に際限なく、隨つて温熱の出で去ること尤も多く且つ早し)扨ては、雲の無き晴れたる夜には、地上の萬物が冷却するとも多く、就ては、亦た之が上に露の結び生ずるとも多きなり、晴れた

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

霧、霞

る夜が寒く、曇りたる夜が温かく、曇りたる夜に露少なく、晴れたる夜に露多きは、此の道理に因る。

霧もしくは霞と稱するもの、生ずるも、亦た同樣の道理に因るなり、山又は川の上に、此等のもの、出來るは、何れも、其山又は川の冷やかなるに因る、彼の山の上に霞などの出來たるを見よ、朝たには其の澤山に集まり居るに拘はらず、太陽之を温めて、山の表面の温たかなるに隨ひ、霞の水分再たび温ためられて、水蒸氣となり、又空氣中に吸收し去られて、霞則ち滅す、所云る霞の散じたる時なり。又河の上に霧などの出來るを見よ、元來河の水は温たゝめらるゝとの遲き代りに、其の温熱を失ふとも亦遲し、左

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雲

れば、朝又は夕べとなりて、太陽の見へざるときには、河の左右は、河の水よりも冷やかなり、故に、自然、河の左右の空氣は、河の上の空氣よりも冷やかなり、然るところ、凡そ冷やかなる所ろの空氣は、之よりも温かなる方へ向つて流れ行くと通常なれば、右に申す如き場合には、河の左右の冷やかなる空氣が、河の上の更らに稍や温かなる空氣の所ろに流れ込みて、扨ては此の空氣の中に含まれたる水蒸氣を凝集せしめ、以て所云る河霧なるものを生ぜしむるなり、朝又は夕べに、河の上にのみ、此の河霧の生ずるとあるは、即ち此の道理に因る。

右の如く、地上の近邊に於て水蒸氣凝集し、或は露となり、

七四

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

或は霞霧と爲るとなれども、其尤も多く凝集するは、即ハち天に於ての事にて、所云る雲なるもの、出來るぞ是れなる、蓋し雲は、申す迄もなく、矢張り水蒸氣の凝集したるものにて、素とは、地球表面の水ある所より立昇つたる水蒸氣が、温氣に抱かれたるまゝ、上へ上へと上り行きたるところ、先づ第一に、上に行くほどに其の空氣が薄らぎ離るゝと、第二には、其空氣中の温氣が、段々に失はるゝと、第三には、上天の冷やかなる所ろに觸れ、若しくは、四方より觸れ來る冷氣に出であふとなどにより、遂に彼の水蒸氣は凝集して、雲となるなり、故に、斯くして雲の出來る工合を、下より明らかに見得るとあり、即ハち、最初たゞ一と塊

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

まりの雲片、天の一方に出來たるが、追々と四方の小雲片之に集まり合し、見る〳〵一天にはかに雲を以て覆はれ、またゝく間に、黑雲空を包み、遂に雨と爲て、滴々降り來る迄で、其順序道すじの大方の承知さるゝとある也。夏の朝た等には、天上悉く霽れて、一つの雲もなきとあり、然るに太陽東に出でゝ、地上漸やく溫ためらるゝに隨ひ、水分追々と蒸發して、上に昇り、茲に凝集して雲と爲る、左れは朝たには一つの雲もなかりしに、午後もしくは夕方となる比ろ、天の所々に多くの雲あるを見るなり、然るところ其の夜に入つて、此雲復もや悉く散じ、其跡方を見る能はざるに至るは、實は是れ彼の午後の頃より出來りし雲が、夕

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

方と成るに隨つて、漸やくに其溫氣を失ない、溫氣を失ふに隨つて、漸やく重くなりて、下に下るところ、下の空氣は、夏の常として、尙更らに溫かなるゆへ、彼の下り來りたる雲、茲に至つて溫ためられ、再び水蒸氣と爲つて、則ち散じ去り、其形を滅すると也。然し、斯くして、一旦下り來りし雲が再たび溫ためられ、其の形を滅し散ずるのみにあらず、彼處に造られたる雲が、漸やく下に降りんとする折柄、乍ち風に吹かれて、遠方に參り、其邊頓かに之が跡を遺さゞるに至り、扨ては其形を滅するに至るともあるなり、故に、丁度之に同じき道理にて、今迄此の上に見もせざりし雲が、遙かの彼方より、風に吹かれて飛び來り、以て此の上天

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を、一面に覆ふともある也。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌（十一日發兌）第百廿二號

社說●無名の英雄、戸内の戰死○遊廓の開業式、我が總理大臣其他貴顯紳士を招待せんとす
論說●女子教育主義（大鳥圭介君）○日本婦人洋服採用の可否如何（渡邊鼎君）
批評●女界の國粹保存論○讀賣新聞美人組成の說
叢話●慈善なる貴婦人方に下宿屋料理屋を設けられんとを望む（內村鑑三）○一唱百歎○樹陰に徘徊す○煙草を飲むの利害○百人一首一口話
小說●さすがに双紙（美妙齋）○小說神髓
佳傳●印度女學士、ラマバイ女史
寄書●日本婦人の洋裝（在米、根本正）
新報●東京高等女學校敎諭○レース敎場敎師ジョン氏○レース製造場の黑色レース其外出版書目
外報●ガリバー孃○シラキウース女大學○紐育師範女校長の給料○女學特待生○英國貴女雜誌日本婦人の評○印度高等女學校○獨逸先帝の言葉
小供談●心のかわりやすき人○貴人と紐

來十八日發兌（女學雜誌）第百廿三號

社說●無名の英雄、戸内の戰死
論說●女子教育主義（大鳥圭介君）○日本婦人洋裝論（渡邊鼎君）
批評●新篇紫史
叢話●木村鐙君の二周忌日○婦人病の元因（長谷川泰）○煙草を飲むの利害○女神現はる○英詩○花の紅白
小說●哲女の卷○小說神髓
佳傳●靜のはなし（高橋おろか）
寄書●新報●外報●小供談
一冊定價金五錢府內無稅

女子必携 **今世ひめ鑑** 新刊美本一冊

闢輪正路纂著○木村熊二田口卯吉兩君序

定價六十錢郵稅十二錢

右出版いたし候是非は自づから公評あらん當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵悉く記載し有之候蓋し右の「ひめ鏡」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑の亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

發兌所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

女學雜誌社出版書目

船越鼎太郎著 産婦小兒攝生法 定價金十八錢 郵税金四錢

鈴木弘恭大人著 改正増補文法口授 定價金十八錢 郵税金四錢

横山雅男君著 婚姻論 定價金三十五錢 郵税金十四錢

巖本善治編 木村鐙子小傳 定價金十錢 郵税金六錢

中島湘烟女史著 善惡之岐 定價金五十錢 郵税金十四錢

渡邊鼎君著 束髪獨案內 定價金十五錢 郵税金四錢

發兌 女學雜誌社

定價

通信女學講義録一冊七十頁以上定價二十錢
半年分前金一圓 一年分前金二圓也
但し右何れも郵税を要せず

是迄發兌の分

本號にて既に十二號と相成り即ち一ヶ年分を出版したると爲りぬ。凡そ是迄の分を一まとめにして買入らるゝには同じく右の割引を致すべく。通信女學は初めより引續き御覽なくては利益も少かるべしと存候に付改て從前の號數購讀を勸め參らす

廣告の事

廣告料一行五錢に改む但し二十行以上は一割引四十行以上二割引とす。此講義録は久しく保存せられ永久貴婦人方の机上に備置かるゝものゆへ之に廣告せらるゝは他の一日限りの新聞紙もしくは一時流行の雜誌などに廣告せらるゝよりは御便利多かるべしと存候事

期日

本録は毎月十五日を定日として出版す同日もし日曜日に當れバ其翌日といたし候

東京京橋區日吉町八番地
發行所 女學雜誌社

東京々橋區日吉町八番地寄留
持主兼編輯人 巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷 森田豐

東京秀英舎印行

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY